

令和7年9月定例会

## 生涯学習の必要性と人生100年時代への対応

文部科学白書では「生涯学習」とは、一般に人々が生涯に行う習活動すなわち学校教育、社会教育、スポーツ・文化活動などすべての学習活動を指す。知立市は平成13年県下で最初に生涯学習都市宣言をを行った。

人生100年時代、生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」の最大化に向け、学びなおし、新たなスキルづくりまたその成果を生かす機会づくり、発表できるなど環境づくりが必要。更にその活動が、まちづくり全体を活性化の源となるよう、生涯学習を推進すべき。



令和7年12月定例会

## 知立駅周辺整備事業の課題



知立駅付近連続立体交差事業がさらに延伸と事業費の大幅な増加を受け、責任の明確化と原因をただすとともに影響最を小限に抑え当初の事業目的である街の一体化に加え、住民にとって住みやすく幸福感を感じられる、ウェルビーイングの街づくりを提案。この事業の大きな課題の一つは、駐車場の確保。現在の市営駐車場の収容台数は再開発計画では半減。

駅を中心とした街づくりオフィス誘致駐車場の確保は必須。

駐輪場の確保も含め、高架下利用等早急に名鉄との協議を進めなくてはならない。

中心市街地の昼間人口の確保について、行政がようやく中心施策としての取り組みを開始。

※しかし駐車場問題がネックとなっている

**提言の実現**

令和8年3月定例会

## 2040年問題について

2025年問題では、団塊の施買いを支えるジュニア世代の人口にボリュームゾーンがあった。しかし2040年その団塊ジュニア世代が65歳を迎え支えられる側に移行し始める。しかし、支える画に人口のボリュームゾーンはない事が決定的な違い。

国レベルでは、高齢者1人を支える現役世代人数は2000年では3.9人、2020年では2.1人、2040年では1.6人との試算もある。

介護医療などの社会保障やインフラの維持が困難になるほか労働力の不足から経済の縮小など様々な課題が予想される。行政職員の人材確保、育成、公共施設の効率的な統廃合、増大する介護重要の対応、少子化対策など喫緊の課題。

